

年中、右手に薄革の黒手袋をはめている男子学生。
 学友からは「邪気眼」、「ライトハンド」等の不名誉称号を賜るが、
 そう呼ばれる度に、ノリノリで中二病っぽくおどけてみせる。
 どこの学級にも一人はいそうな、三枚目なおちゃらけ野郎である。

右腕の肘から先の大部分が、痣のように蒼黒く変色しており、感覚が無く、指は親指から中指までの三本は動かない。
 これは、幼少期、覚醒直後のオヴァードの能力に巻き込まれ、右腕を胆簀の結晶に変えられてしまったためである。
 当時は、腕の結晶を無毒化することには成功したものの、元通りにはならず、
 万が一の結晶の再活性化やレネゲイドウィルスの感染等を考慮して、右腕の切除が検討されたが、
 「もう一度会って、この小指で約束したんだ」
 「アイツの手をつかもうとしたけど、石になって、できなかったんだ。だから、いつか……」
 という本人の哀願を受けて、中止となる。
 結晶のままでは一般人の目につくため、人肌として認識される偽装が施されている。
 本人にも記憶処理は施され、その事件、その願いは忘れ去られていた。

オヴァードとして覚醒した彼は、主に自身の右腕を青色の"砂"へと変化させ、自在に操る。
 半ば失われた右腕を再構成し、蒼の装甲をまとうた力強い義腕として蘇らせるのだ。
 かつての願いを叶えるかのように。